

平成22年度

事業報告書

自 平成22年4月 1日

至 平成23年3月31日

財団法人 ノーマライゼーション住宅財団

## 〈基本方針〉

平成 22 年度は、経済状況の変化により、当財団の基本運用財産収入は減少を余儀なくされました。この様な中、事業運営の集約化を図り、踏襲していくものは継続させ、諸事業を通して障がい者や高齢者が安全で安心して暮らすことの出来る福祉住宅の向上・普及の支援や住環境はどうあるべきか等について取り組んできました。

広報誌や情報誌の発行、福祉団体の主催する諸事業への協賛、後援を通してノーマライゼーションの理念である全ての人々が地域社会の中で分け隔てなく「共に暮らし共に生きること」がノーマル(正常)であるという考え方の啓発や普及に取り組んできました。

## 〈事業の報告〉

### I、福祉住宅支援事業

#### (1) 助成金による福祉住宅向上・普及の支援

障がい者や高齢者が安心して快適に暮らすことのできる社会づくりの一環として、福祉住宅及び福祉小規模集合住宅（以下「福祉住宅」という。）の向上・普及を目指す 22 年目の取り組みを行いました。

福祉住宅として、新築またはリフォームした建築主を対象とした助成金事業に昨年は個人から 9 件・法人から 3 件の計 12 件の応募申請がありました。

菊地理事を審査委員長として、また大阪理事、松岡理事、西代評議員、小西評議員の他、外部委員 1 名の計 6 名による厳正な審査の結果、総額 255 万円を助成することができました。

(敬称略・順不同)

	助成金額	区 分	氏 名	住 所	備 考
1	30万円	新 築	安部 範子	江別市	
2	30万円	新 築	齊藤 勝	浦河町	
3	25万円	新 築	舘岡 英司	深川市	
4	20万円	新 築	中村 義春	江別市	
5	10万円	新 築	梶田 健太郎	南幌町	
6	30万円	リフォーム	佐久間 秀二	郡山市	
7	20万円	リフォーム	三好 誠	江別市	
8	20万円	リフォーム	加藤 勇一	美唄市	
9	10万円	リフォーム	渡辺 伊久子	東京都	

10	25万円	新築	医療法人やわらぎ	北広島市	小規模住宅
11	25万円	新築	旭川ねむのき会	旭川市	小規模住宅
12	10万円	リフォーム	医療法人エムエム会	呉市	小規模住宅

[審査日] 平成22年12月14日

(敬称略・順不同)

《応募者数 12名》 ※審査委員長

《助成金総額255万円》 北海道工業大学 名誉教授 菊地 弘明

30万円 3名 ※審査委員

25万円 3名 北海道デザイン協議会 名誉会長 大阪 克彦

20万円 3名 一級建築士事務所西代企画設計 代表 西代 明子

10万円 3名 ㈱住宅産業新聞社 代表取締役 小西 征夫

社会福祉法人北海道社会福祉協議会 常務理事 松岡 治

㈱北海道住宅新聞社 代表取締役 白井 康永

## (2) 情報誌「ふれあい」による福祉住宅の実例発信

福祉住宅助成金建築主への直接取材を通じ、日常生活の参考や介護面の参考となる実例を掲載した情報誌「ふれあい」を発行し、会員の皆様をはじめ、各市町村、行政機関や社会福祉協議会等の関係先に幅広く配布し、多くの皆様に役立つことができました。

## II、ノーマライゼーション啓発事業

### (1) 「おとしよりが楽しく暮らすためのアイデア・コンテスト」の実施

昨年15回目となったコンテストは、障がい者や高齢者が家庭はもとより外出においても楽しく快適な環境で生活が送れることをモットーに、全道小中学校に働きかけたところ、小中学校23校、436名の児童生徒の素晴らしいアイデアの作品応募がありました。

大阪理事を審査委員長として、また菊地理事、西代評議員、末廣評議員の他、外部委員3名の計7名による厳正な審査の結果、次頁記載の各賞を決定し「ウィズライフ」での掲載や札幌地下街「オーロラコーナー」での展示、北海道新聞での紹介等により、多くの人にノーマライゼーションの理念の一端を知ってもらうことができました。

平成22年 第15回 おとしよりが楽しく暮らすためのアイデアコンテスト入賞者名簿

小学生の部 応募数 262名

賞	児童・生徒氏名	学校名	学年	題目
<b>最優秀賞</b>	小田 康介	上富良野町立東中小学校	6	タッチ冷蔵庫
<b>優秀賞</b>	花畑 和	釧路市立芦野小学校	2	がんばるカメ!
(3作品)	小川 悠	松前町立大島小学校	6	ケガなしペタ
	平田 千里	島牧村立島牧小学校	6	メロディ パネル
<b>優良賞</b>	荒町 陸	北斗市立浜分小学校	5	スーパー手帳
(5作品)	安藤 咲恵	北斗市立浜分小学校	5	自動でシュー
	波多野 ひかる	北斗市立浜分小学校	5	ベッドにマッサージ機
	村木 佳澄	北斗市立浜分小学校	5	ゆっくり言ってくれる耳せん
	熊谷 穂高	函館市立臼尻小学校	6	らくらく録音器
<b>佳作</b>	野崎 恵里奈	三笠市立三笠小学校	4	さむい人におすすめ
(11作品)	上野 有花	北斗市立浜分小学校	5	♪おしらせします!!
	上鶴瀬 圭次	北斗市立浜分小学校	5	何でも録音ほちょうき
	小岩 亮斗	北斗市立浜分小学校	5	孫の声で元気元気
	東館 雛	北斗市立浜分小学校	5	らくに!おしえて・スピーカーくん!
	前川 春乃	北斗市立浜分小学校	5	入れるだけ!エコバック
	吉泉 月	北斗市立浜分小学校	5	!!ラクチン!!タンス
	鶴田 葵	美幌町立美幌小学校	5	自動車 車いす
	小川 麗奈	松前町立大島小学校	6	安心GPS時計
	佐藤 葉月	松前町立大島小学校	6	らくらく つえミラー
	小川 祐平	函館市立臼尻小学校	6	楽々おふろう君
<b>奨励賞</b>	長濱 野乃花	旭川市立高台小学校	3	ワンワンベル
(12作品)	阿部 穂乃加	三笠市立三笠小学校	4	スーパー自動風呂
	鈴木 絵	上富良野町立上富良野西小学校	5	すいとり ハタ くん
	平野 宏祐	小樽市立量徳小学校	5	ボタンをおすと音のでる時計 他
	畑 優香	小樽市立量徳小学校	5	音声ブック
	加藤 美音	美幌町立美幌小学校	5	画面ラジオ
	高松 菜乃	美幌町立美幌小学校	5	安心ナビヘッドホン
	奥田 菜月	北竜町立真竜小学校	5	万能づえ
	森 みほ子	北竜町立真竜小学校	5	車いすの人でもラク!使いやすい台所
	岡本 明里	礼文町立神崎小学校	5	昔へタイムスリップ!!
	谷口 賢矢	上富良野町立東中小学校	6	ワンタッチめがね
	中山 涼未	島牧村立島牧小学校	6	おしゃべりボード

中学生の部 応募数174名

賞	児童・生徒氏名	学校名	学年	題目
最優秀賞	宮高 由衣	釧路市立山花中学校	2	ひったくり防止！！バッグ
優秀賞	赤間 仁実	名寄市立名寄中学校	3	ポンプ型はさみ
(3作品)	大津 寧菜	名寄市立名寄中学校	3	回転しちゃっタオル
	金谷 由貴	名寄市立名寄中学校	3	押すだけオセロ
優良賞	安保 絵美莉	名寄市立名寄中学校	3	かけまんねん
(5作品)	垣内 ルイ	名寄市立名寄中学校	3	Flyバンッ！！
	佐々木 百花	名寄市立名寄中学校	3	窓ふきますワイパー
	佐藤 綾香	名寄市立名寄中学校	3	暑くないマフラー。
	鈴木 綾	名寄市立名寄中学校	3	ラクまくら
佳作	大水 雅也	雄武町立雄武中学校	1	登山のレーダー
(11作品)	岩澤 知弥	せたな町立瀬棚中学校	2	顔と声が一度に楽しめる写真たて
	土見 将大	釧路町立富原中学校	3	超 聞こえるメガネ
	高田 ゆめ	北見市立小泉中学校	3	くるっとポン
	赤川 夏菜	名寄市立名寄中学校	3	Step Chair！
	安斉 津袈沙	名寄市立名寄中学校	3	時計型体温計
	遠藤 雅基	名寄市立名寄中学校	3	拡大くん
	大西 亜里紗	名寄市立名寄中学校	3	B I Gあんど辞書
	齋藤 和希	名寄市立名寄中学校	3	ヤケドしないヨ コップだよ！
	向田 悠夏	名寄市立名寄中学校	3	ラクラク バスそうじ
	湯川 耕佑	名寄市立名寄中学校	3	字幕でテレフォン
奨励賞	岩間 朝美	旭川市立明星中学校	1	ボタン付き車いす
(10作品)	川田 萌	雄武町立雄武中学校	1	車イス用 折りたたみ傘
	八重樫 愛	雄武町立雄武中学校	1	相坊くん
	竹井 美央	釧路市立山花中学校	1	多機能パソコン
	坂田 智美	室蘭市立東中学校	1	おくすりタイマー
	石田 義貴	石狩市立聚富中学校	2	エアベルトバッグ
	眞野 琴音	石狩市立聚富中学校	2	Read☆ペン・イアー！！
	坂本 華希	函館市立港中学校	2	心くん
	佐々木 虹歩	釧路町立富原中学校	3	コミュニケーション人形 TELちゃん
	高橋 和	釧路町立富原中学校	3	万能杖

(敬称略・順不同)

[1次審査日]	平成22年11月11日・12日	[審査委員長]	北海道デザイン協議会 名誉会長	大阪 克彦
[2次審査日]	平成22年11月15日	[審査委員]	北海道工業大学 名誉教授	菊地 弘明
[審査会場]	財団法人ノーマライゼーション住宅財団 札幌市中央区大通西16丁目2-3・ループル16-9F		一級建築士事務所西代企画設計 主宰 札幌市社会福祉協議会 評議員 北海道社会福祉協議会 総務部長 北海道造形デザイン専門学校 学校長 北海道新聞社 本社編集局 生活部次長	西代 明子 末廣 隆典 藤田 裕行 佐藤 進 塚崎 英輝

(2) 広報誌「ウィズライフ（共に生きる）」の発行による共生の心の啓発や普及ノーマライゼーションを推進している人の対談やインタビューの他、福祉機器や設備など役立つ情報をわかり易く紹介する同誌を年2回刊行することができました。

「ふれあい」同様、会員の皆様をはじめ、各市町村、行政機関や社会福祉協議会等の関係先に幅広く配布し、地域の皆さんのノーマライゼーションの啓発に役立つことができました。

### Ⅲ、福祉事情事業

#### (1) 福祉事情の視察

ユニバーサルデザインの街づくりや福祉への取り組みの現地を視察することにより、今後の福祉向上に役立つ情報を収集することを、前年は菊地理事に同行し音更町を訪問しました。同町が経営母体として運営している「高齢者と若者のふれあい住宅」について役場（行政）より説明を受け、実際に生活している入居者の皆さんと対談し、高齢者（女性）と若者（女性の大学生）がふれあえる場、共に助け合うことのできる居住空間の良さ取材することができました。また、多機能ホーム「啓寿まくべつ」を訪問し取材しました。報告は次回発行の「ふれあい」に掲載の予定です。

#### (2) 協賛、後援等による社会貢献

福祉関連行事への協賛や後援により、諸団体と共に社会貢献に取り組む一環として、前年度は北海道社会福祉協議会主催の「子どもの虐待に関するフォーラム」への協賛、「福祉介護をキャリアアップ」研修会や「福祉用具・住宅改修プランニング」研修会などを後援し、多くの人に役立つ「ウィズライフ」や「ふれあい」の配布を行いました。

また、北海道新聞社主催の「マイホーム教室」を後援し、今後の福祉住宅や住環境のあり方・長期優良住宅等について、川本理事が講演し多くの皆様に役立つことができました。

#### IV、その他

新法人移行制度へ向けての取り組みをスタートさせることができました。

また、福祉住宅支援・ノーマライゼーション啓発の事業について、より多くの皆様に知ってもらうため、公共の場での掲示や地方紙、業界紙への掲載に努めました。

尚、日本赤十字社、国境なき医師団、北海道難病連等へ若干の寄付をさせていただきました。